

2024年度 学校評価（自己評価）

目標

子どもが集団の中で、遊びを楽しみ、育ち合う。

計画

- 幼稚園生活の中で、子ども達一人ひとりの“個”的存在を大切にしながら、物事に向き合う力や、集団の中の一人としての意識を育てる。
- 生活する基礎を培い、生きる力を養う。
- 今ある環境を活かし、親育てをしながら、子どもの心を育む。

＜今年度の取り組み＞

当園を象徴する「好きな遊び」に広がりと、深まりをもたせられるよう、今の遊びを見直し、より充実した遊びが展開できるよう、時間や空間を保証していった。例年6月に取り組んでいる乗り物ごっこを行わず、好きな遊びの中で、グループ製作のようなものを行った。ただ、経験の薄い先生では上手に進められなかつたことは反省である。職員の働き方を見直し、就業規則を遵守し健全な職場の運営に力を入れる。パピーナ（ICT）を活用し保育記録等の情報を職員間で共有することができるようになった。また、各保育室にiPadを導入し、子ども達の登降園の連絡が保育室で確認できるようにする。6月から暑さが厳しくなり、園庭にパラソル2基を設置し、日陰をつくるようにした。1階エントランス前の図書コーナーを改装し、子ども達がゆったりとくつろげる空間へと進化させると同時に、当園のシンボルとなった。2・3号認定児の入園希望者が増えるのとは反対に、1号認定児の入園希望者が減ってきてている状況を鑑み、今年度から委員活動を廃止し、ボランティア制を導入する。最低2回のお手伝いは積極的に参加されていた。預かり保育を利用する子どもが多くなり、預かり担当者やスペースの確保が難しくなってきている。充実した預かり保育を実施できるよう、保育内容等について再検討が必要になっている。昨年度、新人職員3名が途中退職された経験から、新人の育成にも力を注いだ。仕事量をできる限り減らし、同僚とのコミュニケーションを大切にし、定期的に面談を行うなど、精神的負担を取り除けるよう関わっていった。その効果もあり、途中退職はゼロであった。給与水準の向上や市のサポート給付金（5年90万円）、借り上げ制度、家賃補助、様々な福利厚生などの魅力ある職場・仕事へとイメージ改革を進め、働きやすい職場、働きたい職場へと進化していっている。市内の他の私立幼稚園が子ども集めに苦労している中、当園はしっかりと人数を維持できており、少なからず良いイメージをアピールできていると自負している。ただ、少子化は確実に進んでおり、いつかはその波に飲み込まれる時が来ることは確実である。その時に慌てることなく、さまざまな施策講じ、選ばれ続けられる園にならなくてはならない。

4月　・ツインタワーの修理を行う。

↑設置から20年が経ち、通常のメンテナンスではカバーできなくなっている階段や梯子、床を部分的に新しいものに変更する。

・畑のメタセコイヤやケヤキ、カシの高木の剪定作業を開始。

↑40年以上も前に植えられた木でとても太く高く育っているが、台風が来ると根本から倒れる可能性があり、クライマーが登って切っていく特殊伐採に依頼した。3クールで計8本の高木の枝を落とし、高さを1/3縮めてもらった。

・英語遊びは課内・課外共にりえ先生が中心となって実施していく。

↑ゆみ先生は元気ですが、後進を育てる意味で、レッスンには一緒にいらっしゃるが、主はりえ先生が行う。

- 5月
- ・子どもの日の集い今年度から開催せず。
↑連休中ということで、休みが多く、柏餅が無駄になるため、別日の昼食のおやつに提供した。普段の保育の中で子どもの日の意味を伝えることが可能。
 - ・日曜参観ではなく土曜日参観に変更する。
↑この時期、小学校が日曜日に運動会をしていることが多く、弟妹が参加できないことがあった。また、土曜日保育を利用している子は日曜参観だと休みなしに2週間過ごすことになり、負担が大きいため。
 - ・家庭訪問をやめ、春の個人懇談を行う。
↑働いている方にとって家庭訪問は大変ということを聞いた。仕事を休むことはもちろん、掃除にも時間がかかるため。
 - ・お兄さん・お姉さん先生スタート。
 - ・創立記念日の研修会を開催。
 - ・内科健診を実施。
 - ・トイレ用のモップをダイキチからリースで導入。
↑水の吸収がとても良く、トイレの手洗い下の床を拭くのにちょうど良かった。
- 6月
- ・スカイパークに行く。
 - ・歯科健診を実施。
 - ・ミニ・コンサート（クラリネットカルテット）を開催。
↑前園長徹先生の会社ビュッフェクランポンはクラリネットで有名なためビュッフェクランポンお抱えの演奏者が当園で演奏できることに誇りを感じておられるとのことでした。
 - ・つくし、どんぐり、年少組ではお父さん・お母さん先生スタート。
 - ・ホールのオルガンを修理する。
↑外国製のハモンドオルガンで、かなり古く今は部品がないとのことでしたが、職人の意地で部品を作成し直してくれました。
- 7月
- ・プラネタリウムに行く。
 - ・年長組一泊保育
↑園内に一泊する。子ども達にとっては安心できるようで、発熱者もなく、ぐっすり睡眠もとれているようであった。豊中市の野外活動センター「わっぽる」には雨で行かず、園内にさまざまなコーナー（箱積み、木工、バーベキューなど）を設置し、フリータイムを楽しんだ。
 - ・図書コーナーの改修工事が始まる
↑総額1,300万円かけ、図書コーナーを改修。螺旋階段の窓には紫外線等を遮断する樹脂を塗る。本棚の裏はBブロックの台座を設置したり、絵本作家さんに絵を描いてもらったりと様々な工夫を凝らす。
 - ・グレース評議員会を開催する。
 - ・大型パラソル2基を購入する。
↑熱中症対策のため園庭に大型パラソルを設置し日陰をつくる。
- 8月
- ・裏山の遊具の改修を行う。
 - ・ヤギ小屋を建設する。
↑ウサギやモルモットと一緒にヤギを飼うのはおすすめではないという、プロの意見に従いヤギ小屋を空いているスペースに建てる。余った木材は屋上遊具の補修に使う。
 - ・図書コーナーが完成する。
↑円柱型の水槽内は親しみやすい海水魚（デバスズメ、クマノミ、ナンヨウハギ、コガネキュウセンなど）を入れ子ども達の興味を掻き立てる。

- 9月
- ・満3歳児クラスがスタートする。
 - ・木製のおわんを導入する。
↑岩手県の大野木工さんに木製プレートを作ってもらっており、今回は前年度から頼んでいた木製のおわんが完成し、納品された。まずは年長児から使ってもらった。
 - ・プール、色水遊びやどろんこ遊びを継続して行う。
↑残暑が厳しく、水遊びが気持ちいい時期であったので、今後も9月は実施するだろう。
 - ・敬老の日の集いを行う。
 - ・入園説明会を開催。
 - ・高木の剪定作業がようやく終了。
↑切り枝や葉の量が多く、トラック5台分の枝や葉をもって帰ってもらう。撤去費がかなり高額になった。

- 10月
- ・新入園児の願書受付を行う。
↑1号認定児の募集人数が15名に20名が来られ抽選をする。キャンセル待ちは5名。
 - ・課外ダンス教室がスタートする。
↑前実行委員長の多賀さんが講師を務めるダンス教室が開設される。とても人気があり30名が参加している。また、小学校のクラスも多く参加している。
 - ・ナーサリー、満3歳児クラスの受付を行う。
↑満3は1名の空きが発生する。ナーサリーはどのクラスにも空きが目立った。
 - ・交通安全教室に年長児が参加。
 - ・運動会は10月中旬に万博公園のグランドで行った。
↑暑さのため、年々開催を遅くしている。14時には終了した。
 - ・社会見学は行きも帰りも電車に乗って天王寺動物園に行った。
 - ・芋ほり、大根の種まきを行う。
↑芋は不作が続き、今回も大きな芋が少なかった。

- 11月
- ・バザーは在・卒関係のみで行い、盛大に開催する。
 - ・秋の遠足は緑地公園へ歩いて行った。
 - ・お店屋さんごっこ、動物園ごっこは例年通り実施。

- 12月
- ・防火教室を開催。
↑消防隊員が数名来られ、避難訓練の様子を見てもらった。防火防災のDVDを見て、先生たちの消火訓練や消防車を見学した。
 - ・「ふれあい動物園」を開催。
↑アルパカなど、普段接することのできない動物と触れ合いやさしく接する気持ちを知ることができた。
 - ・園内の植栽管理を藤庭園緑化に依頼する。
↑今までグリーンスタジオにお願いしていた園内の植栽管理だったが、グリーンスタジオが倒産したため、以前グリーンスタジオの下請けで当園でも仕事をされていた藤庭園緑化の佐藤さんに依頼する。道路側のミモザやモッコウバラが枯れていたので、新しいものに入れ替えてもらい、空いているスペースにブルーベリーを数本入れてもらった。
 - ・クリスマス会は、例年通り午後から開催。
↑第一部は人形劇をみて、第二部は合奏を聴いたり、ディナーを食べたりし、最後にサンタからプレゼントをもらい、みんなで探し、楽しいひと時を過ごした。
 - ・もちつきを開催。
↑年長組のお父さんが数名来てくださり、つくお手伝いをしてもらった。

・年中組の合奏発表会

↑年中組が4楽器（タンバリン、カスタネット、スズ、トライアングル）での合奏を演奏し、年少組など、下のクラスに聴いてもらった。その様子を動画撮影し、YouTubeで発信した。

1月 **・やきいも大会、こま回し大会を実施。**

・保育参観を行う。

・内科健診2回目を実施。

2月 **・節分豆まき**

↑今年度も豆を使わずボールや新聞紙を丸めて投げ合う。また、食べる用の豆は提供せず、サラダなど加工して安全に食べられるようにした。

・子ども会

↑クラスごとに行い、劇だけを発表する。保育は継続し、懇談で担任が抜ける場合にはフリーの教師が入るようにした。

・年長組わいわいグレースカーニバル

↑運動面だけを競うのではなく、クイズなど頭を使ったり、クラスのチームワークを試したりと、子ども達それぞれの特徴を生かせる機会をつくる。

3月 **・ひなまつり音楽会**

↑テレマンアンサンブルの皆さんのが来園され、面白くアレンジしてくださり、子ども達は飽きずに楽しんでいた。オペラ歌手が来られ一緒に歌う機会があり大喜びの子ども達だった。

・お別れ遠足

↑年長以外の1号認定児はお休みしてもらい、年長児は多くの先生と一緒に万博公園へ遠足に行った。6人程度のグループで子ども達が行きたいところを決め、自分たちで楽しむという遠足でとても自信がつく1日だった。

・子ヤギが飼育舎に仲間入りする。

↑1歳の白ヤギがやってくる。雌で、子ども達が名付けた名前は「ゆきちゃん」でした。とても人懐っこく子ども達に人気。

・年長組の合奏発表

↑年中の時と同じように演奏風景を動画に撮り、YouTubeで保護者に見てもらった。

・お別れ会

↑全園児が参加し、保護者の人形劇やコーラスを見たり聴いたりして楽しんだ。年長児が考えたうた「おもいで」を初めて保護者に発表した。

・卒園式

↑保護者2名まで参加可能。子ども達はしっかりと成長した姿を保護者に見せ、小学校への就学を楽しみにする姿が見られた。

※退職者…6名

※卒園記念…調理室前の壁に絵を描いてもらう

グレース幼稚園が以下の項目をどれ位できているかどうか、右に「○」「△」「×」で評価してください。

(わかる範囲で構いません) 最後に今後の課題を記入してください。

評価項目

心身の健 全な成長 (あそ び)	体を十分に動かしてあそびを楽しむことができる。	△
	好きな遊びを見つけて存分に楽しむことができる。	○
	園の職員全員で子どもを育てている。	△
	様々な活動に挑戦する中で、友達と刺激し合い達成感を味わうことができる。	○
	他学年との交流をもち、育ちに生かしている。	△
	自分に自信を持ち、友達を認めることができる	△
	思いを言葉で伝え合い、豊かな表現力を身に付けることができる。	△
	遊びを通して相手の気持ちに気づき折り合いをつけることができる。	○
	戸外での遊びを通してバランスの良いからだづくりができている。	△
	子ども達自ら遊びを工夫し、ルールや役割のある遊びを作り出す。	△
	じっくりと遊びの時間をもっている。	△
教育環境 (自然)	園内の自然（樹木、果実、花、動物、虫、畑の野菜）を通して季節を感じることができる。	△
	いきものに接することで“命の大切さ”を知ることができる。	○
	畑の野菜を育てることで生長、収穫、食べ物のありがたみを知る。	△
	夏期等、あずかりの体制が整えられている。	○
	木の実や落ち葉などの自然物を使って遊ぶことができる。	△
	実際の自然に触れ、五感を使って感じてみる。	△
	教師自身が園庭の木々や草花を知り、子どもの興味関心の動機づけができる	△
	起伏のある広大な敷地で遊ぶことができる	○
	植物や動物を育て、その成長に興味関心をもつ。	△
保健衛生 (食育)	季節の伝統料理を頂く。	○
	食に対する意欲をもち、マナーを身につける。	△
	旬の食材や自園で採れた野菜を味わえる。	○
	アレルギー対応ができている。	○
	専任の保健師がおり、怪我の対応（簡易処置）を適切に行える。	△
	健康に過ごすための季節ごとの注意点を看護師や教師から教えてもらう。	○
	食育を保護者にも考えていけるように栄養士との相談会を企画し家庭での食育に園が力を発揮する。	△
保護者と の連携	個人懇談を行い、情報を共有することで、家庭や園で適切な関わりをもてるようとする。	○
	子育て相談、カウンセリングなど、保護者を支える体制が整えられている。	○
	ホームページやパピーナ等により日々の子どもの姿を知ってもらう。	△
	保護者に、より保育のねらいなどを理解してもらう機会（参観や講座、懇談、グレース会、行事など）をもつ。	○
	クラスや個人の様子などを、電話やお便り、メールで保護者に丁寧に伝えられるよう努めている。	△
	活動の過程を見てもらう機会をもつ。	△
就学準備	グループ活動、リーダー活動を通して責任をもって行動することに気づく。	△
	文字、数字に興味をもつために、生活の中に工夫して取り入れていく。	△
	一つの目標にみんなで取り組み、達成感、満足感を味わう。	○
	一人ひとりの違いを認め共に育つようすすめていく。	○
	基本的生活習慣を身に付ける。	△
	規範意識を身に付ける。	△
その他	卒園生へも園へ来ることのできる機会を与え、その後のつながりをもっていく。	○
	職員としての品位を保つよう心がけている。	△
	個々の教師としての向上心、同僚との意識の高め合いが感じられる。	△
	地域との関わりをもち、地域とも連携し、子育てを行っていく。	△

＜今後の課題＞

- ・夏期の猛暑・残暑が厳しいため、遊びが限られる。ホールを有効に使う工夫等、活動・行事の見直し、改善は引き続き、時代の流れや子どもの育ちに合わせて考えていく。
- ・働く保護者が増え、家庭での協力が求め難くなっている。クラスの状況、様子は担任が毎月写真と共にメールえ知らせてきたが、個人のこととなると偏りが出ているので、保護者にももっと園での「教育」を知ってもらう方法を考えていく必要がある。
- ・教師が増えていることが、安心につながっているが、その分連携がより難しくなっている。時間の制約もあるため、直接話す以外の連携の取り方への工夫が必要。
- ・「遊び」をより自主的に行えるための教師の知識を得る機会がなかなか作れていない。
- ・心身の健康な成長：夏の気温が高すぎること、戸外遊びが激減してしまうことへの対策を考える必要あり。
- ・教育環境：他園より整えられているが、十分に生かせていないので、今後の課題。また気候が少しづつ変わっているので、そこへの対応も必要。
- ・保健衛生：ケガへの対応はできているが、保護者へのサポートをより丁寧に行う必要あり。
- ・保護者との連携：少しづつ園に来園する回数（委員制が廃止され）が減ったり、出席ノートへのコメントもなくなったりと保護者の返しが少なくなっていることで、新たな改善が必要。
- ・その他：職員の年齢差があることが、プラスでもあるが、「常識」とは？という点でのズレを年々感じる。「教育」という名のもとで行うときに、気になる点があるのをどうしていくのか課題と思われる。
- ・保育に関しては、行事や遊びの時間の確保など、職員間で話し合い、今の子ども達に何が大切で大事にしていくいかを考えて改善されているので、これからも例年行っているからではなく、話し合ってカリキュラムを考えていくことが大切だと感じる。新しい先生の提案も取り入れたり小さなお子さんのいる職員（パート）からの意見を聞いて参考にしたり、頭を柔らかくしグレースの保育に取り入れてみることがあっても良いと思う。
- ・認定こども園であることで「保育園」のように考えている保護者が多いため、今後はより園としてどういう考えなのか、体制などのなどを具体的に発信していく必要がある。
- ・どの活動も子ども達の生長につながるものではあるが、今の子ども達に合わせて見直すことが必要だと感じている。また人との関わりが減っている今だからこそ、異年齢児との関わりを大切にすることも意識していくべき。
- ・幼小連携については今後の大きなテーマだと考えている。幼稚園から小学校へ大きな段差を越えるのではなくスムーズに移行できるよう、学習に積極的に取り組める姿勢・気持ちといった面を幼稚園生活で身に付けてほしい。そのためにも、小学校のことを知らない先生がほとんどなので、参観や交流などを実施し、お互いの教育・保育を知ったうえで子ども達と関わるようにしていきたい。また、2026年度から学童保育を園内でスタートするので、これを機に小学校との交流をすすめていきたい。
- ・2号・新2号認定児が増えていく中、幼稚園の教育として本当に必要なものは何かということを再度見直し、保護者負担の軽減に努めていくべき時にきている。
- ・園をアピールするということに関して、十分ではない。教育内容、教育環境、職場環境など、どれをとっても、優れた幼稚園であることは、ここで過ごした子ども達や保護者、職員は理解しているはずであり、職員においては当たり前という意識を捨て、恵まれた環境であることを、内外へ発信していくことが必要だと感じる。減ってきている1号認定児の確保に力を入れていきたい。
- ・職員の数が増え、子ども達への声掛けや関わり方にそれぞれの個性がみられるることは良いことだが、グレースの柱である一人ひとりに丁寧に関わるという意識を大切に、子ども達へ接してほしい。また、若い先生が増えてくる中でどのように教育していくのかも、今後の課題である。